

恐ろしい夜間の熱中症

近年地球温暖化の影響もあり、夏季発生する熱中症の問題が注目されています。人は発汗や輻射熱で体内の熱を放熱させることで体温を維持していますが、その均衡が崩れ、過度に体内に熱が侵入したり、うまく放熱ができない時に熱中症の症状が発生します。

【熱中症の症状と分類】

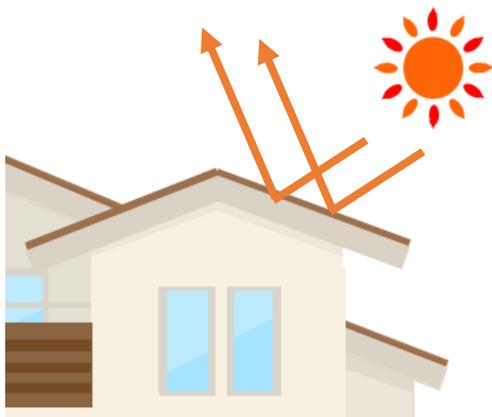
これらの症状が現れた場合には、熱中症を発症した可能性があります		
I 度	めまい・失神・・・「立ちくらみ」のこと。「熱失神」と呼ぶこともあります。 筋肉痛・筋肉の硬直・・・筋肉の「こむら返り」のこと。「熱痙攣」と呼ぶこともあります。 大量発汗	重症度 小
II 度	頭痛・気分の不快・吐き気・嘔吐・倦怠感・虚脱感・・・ 体がぐったりする、力が入らない、など。従来「熱疲労」と言われていた状態です。	↓ 大
III 度	意識障害・痙攣・手足の運動障害・・・ 呼びかけや刺激への反応がおかしい、ガクガクと引きつげがある、真直ぐに歩けない、など。 高体温・・・ 体に触ると熱いという感触があります。従来「熱射病」などと言われていたものが相当します。	

厚生労働省発表資料「熱中症を防ごう」を基に作成（参照日：2021年6月25日）
<https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r985200001dwae-att/2r985200001dwhn.pdf>

【夜間に熱中症が発症しやすい条件】

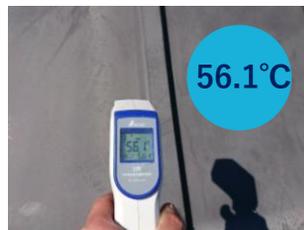
熱中症は日中屋外で発生するケースが件数としては最も多いですが、重症化・死亡につながる確率は夜間に住宅で起きるケースの方が高くなります。高齢者ほど重症化しやすいことは良く知られていますが、身体的な理由だけではなく、高齢者がお住いの住宅は断熱性能が低くても問題ないとされた時代に作られた場合が多く、「人も建物も熱に弱い=熱中症が重症化しやすい」という悪条件が重なっている点が問題となります。就寝中は発見が遅れる場合も多いため、最悪の場合死に至ることもあります。

■ アミコートで平易に熱中症対策



水分補給・塩分補給もお忘れなく！！

BEFORE



AFTER



熱中症が起きるのは夜間でも、その原因となる「熱」は日中の日差しの影響によるものです。建物の断熱性能を上げるためには大掛かりな工事が必要ですが、家の塗り替えで熱中症対策ができるとしたら！

アミコート遮熱タイプを屋根に塗装すると、日中日差しを反射し室内温度上昇を抑え、ひいては夜間の熱中症対策に寄与します。